戦旗

一九六〇年六月廿一日発行
発行所　新宿区東大久保二の一五
世界労働運動研究所
編集発行人　潮木　潔
一部　拾円

万国の労働者団結せよ！
革命的前衛・共産主義者同盟を
すべての工場に組織せよ！
共産主義者同盟

「戦旗」固定購読
お申込みは
新宿東区大久保二の一五五
世界労働運動研究所内
戦旗経営局
定価　一部十円
月四〇円　半年二四〇円

虐殺者岸を打倒せよ！

六・二二資本家秩序をぶちこわす

ゼネストで立て！

（一）

全国の労働者、学生諸君！

労働者・人民の怒に抗して、岸賃本家政府は、遂に一名の学生同志を踏み殺した。

資本家階級は、日々高まる反安保批准をおし通そうと、労働者・人民の怒に抗して、反対するものには權力の黒い手による死で酬いながら、一五闘争によって岸政権延命の支えであるアイク訪日の延期を余儀なくされ、〝議決休会による政治休戦〟の陰謀を未然に粉砕され、なおも権力の坐に居すわり、労働者人民の血で染められた安保批准を完了しようとしている。

十八日の自然成立によって今日明日中に批准手続きを完了しようとしている。全日本の労働者学生諸君！同志の死を無にするな！力には力で、死には死をもって応えよ！岸賃本家政府を倒せ！同志の虐殺に抗議し、安保批准粉砕、岸打倒のためだちにゼネストに立て！岸を倒し、安保批准を粉砕するまで、無期限にストを続けよ！岸賃本家政府を倒せ！批准完了前に岸を倒せ！連日数十万のデモで、国会を警視庁を、おしつぶせ！

虐殺の下手人を逮捕せよ！人殺しの責任者小倉警視総監を即日罷免せよ！

完全な勝利の最後の日まで一切の生産を止めよ！全大学は休校せよ！力を尽して、勝利を闘いとれ！

（二）

六・一五全学連の国会構内大集会は、決定的危機にあった安保闘争に、一挙に突破口を切り開いた。六・一五は六・四ストの成果の上に、今度こそ全二日全交通・運輸、電信・電話、全重要産業を停止させ、ブルジョア秩序に強烈な一撃を加えて止めをさすべき「第二波ゼネスト」の日であった。

だが六・一五は東京では一台の電車も止まらず何の混乱もなく終ろうとしていたのだ。岸賃本家政府を打倒し、安保批准を粉砕するべき六・一五ゼネストは、逆に全運動が下降に向う転機さえなろうとしていたのだ。

何故か。

すべての改良主義者達が、六・四ストを一つの跳躍台として止まるところを知らず前進する労働者大衆の闘いに恐怖し、闘いを小ブルの路線に追い込んで「事態を収拾するため」全力を上げて方針転換を図ったのだ。

それは共産党の手によるブルジョア民族主義の道と、社会党の手による議会主義的妥協の道である。

安保闘争を終始一貫反米愛国闘争だと労働者をあざむき続けてきた日共は全闘争を、十九日のアイク訪日反対闘争に焦点を合せることにより、反米愛国闘争にそらすため、組織を上げて活動を開始していた。

資本家階級との激突をおそれた総評民同またこれに追従した。

「階級闘争を民族闘争へ」これが日共の裏切の全内容である。

同時に、社会党は自民党の高姿勢に威圧され、労働者階級のゼネストによる勝利にまったく確信をもちえないが故に腰を屈して議会主義的妥協の道を求め始め日経連の方針と寸分違わぬ妥協の下手人を逮捕せよ！

協案を自民党反主流との間で検討しはじめていたのである。

すかさず自民党は攻勢に出た。三党首会談・参院五派会議。西尾は応えた。「アイク訪日には超党派的に歓迎する」〝議決休会〟――こうしてすべての対決の場は妥協の洪水に洗ろわれようとしたのである。労働者階級の闘争が六・一五ゼネストが改良主義者の妥協をのりこえて進むか、否か、ここに安保闘争の勝敗がかかっていた。総評民同は、裏切りの最後の仕上をした。六・一五ゼネストは、安保闘争終息の闘争にされようとしていた。

安保闘争は最終局面で決定的危機にある。

これをぶち破り勝利の展望をひらけ！――それが六・一五戦闘的国会デモにかけられていたのだ。

〝議決休会による政治休戦〟を粉砕する。全学連は反対〟をかかげ、全学連は組織をあげた戦闘的国会デモを戦ったのである。

〝国会構内抗議集会はわれわれの權利だ！〟

このスローガンは国会前に結集した二万の学生の心をしっかりと掴んだ。

三本の丸太で補強され、三重四重のトラックを並べた通用門のバリケードは、二時間の激闘の後に破られた。滝のようにふり注ぐ水、真向からふり下されるゴボウ、石が飛ぶ。だ棍棒。血、石が飛ぶ。だが、学生はひるまなかった。

そして、国会構内大集会は遂にかちとられたのである。

だが、権力の犬は棍棒と泥靴によって、女子学生同志の若い命を奪ったのである。

全学連の闘いは決して学生の行動に終りはしない。それは、敵階級に対する全人民の憤怒と、改良主義幹部によって抑えられてきた労働者階級のエネルギーを一代弁して闘われたのである。

一名の女子学生の死は、全労働者を決起させるだろう。血は無駄に流されてはならないのだ。

全学連の六・一五国会デモは安保闘争の本質は資本家階級との妥協のない闘いであり、力と力の対決であり、その勝利は、ブルジョア秩序の中に安住した単なる〝整然〟たる闘争のみではなく、生命を賭した全組織を上げた闘争によってのみかちとられることを、全人民の前に、事実をもって示したのである。

（三）

権力の犬は、一名の学生同志の命を奪った。

われわれは、即坐に復讐戦に立たねばならぬ。

もはや、一切の妥協はない。岸内閣は傲慢不遜な態度を表明しつつ、だが一歩一歩後退を余儀なくされているのだ。

数時間前まで〝警備強化して強行〟を唱えてきたアイク訪日は、遂に無期延期せざるを得なかった。

彼らは今日、〝安保批准まで辞職も解散もしない〟とうそぶいている。

十八日深夜をもって自然成立なったとし、さらに廿日立なったとし、さらに廿日空前のものとなった。莫大な中間層が渦をまいて闘争に加わっている。

六・一五闘争によって生み出された成果を自党派の党派的利益に供するために、社会、日共、総評と、あらゆる勢力は六・一五闘争を支持しつつ全運動の主導権を奪おうと狂奔している。

数時間前まで妥協工作に奔走していた社会党は、一転〝岸打倒・安保粉砕〟を叫び、遂に岸政権まで非妥協的に闘うと声明した。

この日のストを厚顔無恥に裏切り、昨日まで全学連攻撃に血道をあげていた総評・国民会議も、連日の抗議デモ、十八日廿万国会デモ廿二日第三波ゼネストを指令した。

アイク訪日計畫の破産と共に、階級闘争と民族闘争におきかえようとした策動を未然にうち砕かれた日共で、六・一五闘争を真向ずから否定することはできない。

だから、真剣な闘争の組織を一貫して不断に、六・一五闘争を真向から否定することはできない。

だから、真剣な闘争の組織を一貫して不断に、六・一五闘争を真向から否定することはできない。

彼らこそ死せる同志に恥ずべきなのだ。彼らが六・一五で再度開かれた突破口を拡大し、徹底的闘争を組織するという一切の幻想はもちえない。

社会党は、すでに議員総辞職を撤回し、長期闘争を云々し、自民党反主流派に色目を使いはじめている。

総評は、六・二二ストを撤回した。

〝整然たる〟抗議の国民世論喚起の闘争におとしめようとしている。

虐殺者に対する労働者人民の怒りは彼らの居すわりを決して許しはしないだろう。〝学友の死を無駄にするな〟と叫んで学生教授は全学をあげた大抗議闘争に立上っている。

労働者階級は、今度こそは全日ストに、そして全日ストから無期限ストに起つであろう。

これ迄の一人の学生同志の血に誓って、労働者階級はあらゆる異切をうち砕き、資本家の私兵、岸殺人政府の打倒に決起するだろう。

（四）

十八日の国会デモは卅万の全国的なものとなった。莫大な中間層が渦をまいて闘争に加わっている。

六・一五闘争によって生み出された成果を自党派の党派的利益に供するために、社会、日共、総評と、あらゆる勢力は六・一五闘争を支持しつつ全運動の主導権を奪おうと狂奔している。

数時間前まで妥協工作に奔走していた社会党は、一転〝岸打倒・安保粉砕〟を叫び、遂に岸政権まで非妥協的に闘うと声明した。

只、革命的労働者のみが、同志の死の犠牲によってきり開かれた闘争を、勝利に導くことができる。

岸賃本家政府は、一刻も早く全批准手続きを完了し、反対闘争を終熄させようとしている。

岸を倒せ！

岸を倒し、安保批准完了を粉砕せよ！

六・二二ゼネストで岸に止めを刺せ！

全一日のストでブルジョア秩序をマヒさせよ！

岸打倒まで無期限ゼネストを続行せよ！

同志の死に、岸打倒・安保粉砕で酬いよ！

「退陣」の口約束で追撃の手をゆるめるな！

逮捕者全員即時釈放せよ！

虐殺の責任者を即時逮捕せよ！

警視総監を即時罷免せよ！

決定的瞬間に編集スタッフ負傷のため一号休刊したことをおわびする。本号タブロイド。次号以後週刊実行。

おわび　編集部

週刊　毎週火旬日発行　昭和卅五年四月廿日第三種郵便物認可　旗　戦　17号　1960年6月21日

1960年6月15日 ルポ

うなる警棒命を奪う
資本家権力の本性暴露

一九六〇年六月十五日、全学連を中軸とした人民の闘いは、支配階級を心の底から震え上らせた。彼らは、この命をかけて闘われた闘いを、誹謗とデマでつつみかくし、労働者階級をはじめとする人民に真実を知らすことに恐怖心を抱いている。労働者諸君、学生諸君、我々は真実を知らねばならぬ。真実のみが今後の闘いを保障する。故にここに、当日の闘いの本当の姿を諸君に贈る。

「学友諸君！学友諸君！殺安保闘争は、遂に一名の命を奪った。権力の私兵、犬の手で殺されたのだ。深い沈黙をやろう……だが、一寸まて、その前にやることがある。警官隊！

お前達が殺したのだ。お前達に少しでも人間の心があるなら、黙禱に加われ。黙禱の間、鉄カブトをとれ！それが死者にたいする人間としての最低の礼儀だ。警官隊！鉄カブトをとれ！とらないか、警官隊！鉄カブトをとれ！とれ！」

南通用門の内側をキツシリと埋めた一万の学生がこれに応えた。

「とれ！とれ！とれ！とれ！とれ！」

国会そばの道で、ひきだされた警察のトラックがみにくい横腹をみせて炎上していた。

一万の学生の心を焼きつくしていた。

「とれ！とれ！……」の叫びは、夜露にぬれた議事堂の大理石の壁を伝つて暗い夜空にこだましていた。

新聞社のカメラマンも鉄のヘルメットをとつた。窓からのぞいた議員も頭をたれた。警官以外のすべての者が帽子をとつた。怒りと悲しみの静寂の一分間――。

そして、ふたたび前進に移つた。

「学友諸君！

虐殺に憤激した労働者数千が入れず門の外にいる。二部の学友も続々つめかけている。

われわれは構内集会をこうしてかちとつたけれど、こんなせまいところで鉄カブトの監視の中でなく、十二・二七のように、議事堂前中庭で堂々と、全員で大集会をやろう。

そこに、虐殺の下手人をひきずりだそう。人殺しの責任者を呼びだそう。岸に会見を申入れ、呼び出そう。学友諸君、議事堂正面まで前進しよう！

警官隊道を開けろ！」

スクラムが固くくまれた。警官に道を開けさせようとした社会党議員団が空しく去つた。――前進！

それから十数分。二回目の衝突は、一層多くの重軽傷者を生み全学連の宣傳カーは青カブトによつて捕獲された。

青カブトは、なにごともなかつたかのように、否、自ら殺した者の血に刺戟されたように、警棒を振りかざし、石をなげ、ホースで水をかけながら、後退する学生を追い、なぐり、捕えたのである。

×　×

安保闘争は、最後の決戦に至つて、遂に一名の学生の血の犠牲を出した。それは安保改定に政治生命をかけた岸政府の、いやそればかりでなく、十五年の階級支配の前途をかけた資本家階級の、残虐な本性を、赤裸々に示したのである。

この日の警官は、ピストル以外のあらゆる武器を用いて学生に向つたのだ。

久しく東京では姿を見せなかつた青カブト、石を防ぐ木の循、ホース。警棒は警視総監小倉が公言したように全く武器として使われた。そして最新鋭のガス銃が最後に現われた。

この完全装備の青カブトにたいして、学生はまつたく無防備で、ただ自らの肉体の力で戦つたのである。

アイクの〝国民的歓迎〟のための〝議決休会〟による政治休戦反対！〟…すべてが妥協の道をたどつている。

安保闘争は危機にある。これをなんとかしてぶち破らねば――学生の意志は固められていつた。南通用門は他のすべての門と同様にカンヌキの上に三本の太い丸太で補強され、その後には三重のトラックのバリケードが築かれていた。だが、門は、なんの準備もない学生達の力で、またたく間にとり払われたのである。その後に、みにくい姿で学生の前進を阻みつづけていたトラックをめぐつて力づくの攻防戦一時間余がつづいた。警官隊も必死で後からロープで引いたのである。だが、学生の意志は固かつた。五センチ、十センチと門の外に引きずりだされたトラックは、遂に歓声とともに、板がひつべがされた。

が踏み荒した後には、黒々たる重軽傷の学生が横たわり、私服警官が手をとり足をとつて引きずつていく。

石がとぶ。ホースから水がふきだす。門の上から学生傷つきながら手錠をかけられていくものもある。

樺さんはここで殺されたのだ！

共産党 死者を喰物に

六月十五日は同志樺の死と数百の負傷者と検束者を出して闘われたが全学連の闘争を一貫して防害し、十五日の闘争をもボイコットした教育大等に巣食う共産党は、次の日から学生を駅頭に動員し、救援カンパと配の前途をかけた資本家階級の〝残虐な本性を、赤裸々に示したのである。

この日の警官は、ピストル以外のあらゆる武器を用いて学生に向つたのだ。

久しく東京では姿を見せなかつた青カブト、石を防ぐ木の循、ホース。警棒は警視総監小倉が公言したように全く武器として使われた。そして最新鋭のガス銃が最後に現われた。

この完全装備の青カブトにたいして、学生はまつたく無防備で、ただ自らの肉体の力で戦つたのである。

アイクの〝国民的歓迎〟のための〝議決休会〟による政治戦反対！〟…すべてが妥協の道をたどつている。

安保闘争は危機にある。これをなんとかしてぶち破らねば――学生の意志は固められていつた。南通用門は他のすべての門と同様にカンヌキの上に三本の太い丸太で補強され、その後には三重のトラックのバリケードが築かれていた。だが、門は、なんの準備もない学生達の力で、またたく間にとり払われたのである。その後に、みにくい姿で学生の前進を阻みつづけていたトラックをめぐつて力づくの攻防戦一時間余がつづいた。警官隊も必死で後からロープで引いたのである。

だが、学生の意志は固かつた。五センチ、十センチと門の外に引きずりだされたトラックは、遂に歓声とともに、板がひつべがされた。

が踏み荒した後には、黒々たる重軽傷の学生が横たわり、私服警官が手をとり足をとつて引きずつていく。

石がとぶ。ホースから水がふきだす。門の上から学生傷つきながら手錠をかけられていくものもある。

樺さんはここで殺されたのだ！

樺さんの死に誓う
怒りと決意こめ　全国から弔電のヤマ

樺さんの死に対し、全国の労働者から、深い悲しみと、烈しい怒りと、そして岸打倒・安保批准粉砕まで闘いぬく固い決意をこめて、弔電が続々と東大学生自治会・全学連書記局に寄せられている。

六月十七日夕刻現在、八十九通が東大中央委員会室前に貼り出されているがその一部を紹介する。

×　×

北海道教組長沼分会、福岡県貝島炭鉱労働組合、福岡県飯塚炭鉱労組、山形県高教組加茂水産高分会、山形県高教組柏倉高分会、香川県丸亀教組、北海道教組江差高分会、鹿児島県牧園中学、札幌一市民、山形県教組東置賜支部、山形県高教組長井高分会、福岡県飯塚日鉄二瀬職場大会、山形県高教組余目高分会、広島県教組、大阪吹田事件被告団、福岡県三井山野労働組合、香川県教組、佐賀県シンムカイヤマ労組、山形県高教組鶴岡家政高分会、山形県高教組寒河江高分会、炭労高島支部地団研、全電通下関電報局抗議集会、大阪読売労組、福岡県明治平山労組山形県高教組松嶺高分会全国金属田原製作支部、北海道高教組長沼、山形県高教組大山高分会、三菱新入炭鉱労組、山形県高教組在内高分会、

「アンポケツセンノサナカニタオレタカンバミチコサンノレイヲイタム、ロウドウシヤハケシテソノヨウムダニシナイダロウ、アンポフンサイキシダトウマデトモニタタカイヌクコトヲチカウ――三菱長崎造船労組」

樺さんの死体解剖は十六日
「下手人が居る！」

樺さんの死体解剖は十六日慶大病院で行なわれたが、これに立ちあつた代々木病院副院長中田氏は「樺さんは明らかに偶然に死んだのではなく殺されたのだ」と次の様な所見を発表している。

一、両手の甲がメチヤ、メチヤになつているのは警棒で頭部を乱打されるのを防いだため。

一、眼底にウツ血があり首のまわりに全般に内出血が認められるのは両手で首をしめられたため。ここで失心したと思われる。

一、すい臓に集中的におびただしい出血があり、これが致命傷になつている。これは、他の学生がたおれかかつたための圧死と全然ちがい、失心してたおれかかつた所を、膝で力一杯蹴上げられたためと思われる。

一、その他、頭部に、こぶしでなぐられたあとが認められる。

スケジュール

十八日（土）第十八次統一行動。一時間の時限ストー。職場大会。卅万の国会デモ。

全学連「学生虐殺抗議・岸内閣打倒・安保批准粉砕総決起大会」日比谷野外音楽堂。後デモ、徹夜坐りこみ。

東大、故樺美智子さん合同慰霊祭、六千。

十九日（日）国民会議国会デモ、国民会議幹事会各単産戦術会議。自民党七役会議。社会党議員総会。

廿日（月）国民会議国会デモ。全学連無期限ストに続行。街頭進出、国会デモ。

廿一日（火）廿日と同じ。批准手続きについて閣議開催。

廿二日（水）ゼネ・スト。六・四プラス六・一五規模。

廿三日（木）故樺美智子さん学連葬。正十二時、日比谷公会堂。

〝霊前に恥じよ〟
―総評岩井野次り倒さる―
学生虐殺抗議岸打倒決起大会

六月十八日、日比谷野外音楽堂での全学連抗議集会。二万の学生があふれている。

「世論がどうの、マスコミがどうの、といつて闘争をサボつてきた大人たちは、樺さんの霊の前に恥じるべきです。」

壇上から清水氏が呼びかける。拍手。拍手。―「恥ずべきである」―誰が！集つた者たちに、拍手者にそれははつきりしているのだ。樺さんを殺したのは警官だけではない。ともに責任を負うべき大人たちがいるのだ！

次に登壇した総評岩井は、野次とともに迎えられた。

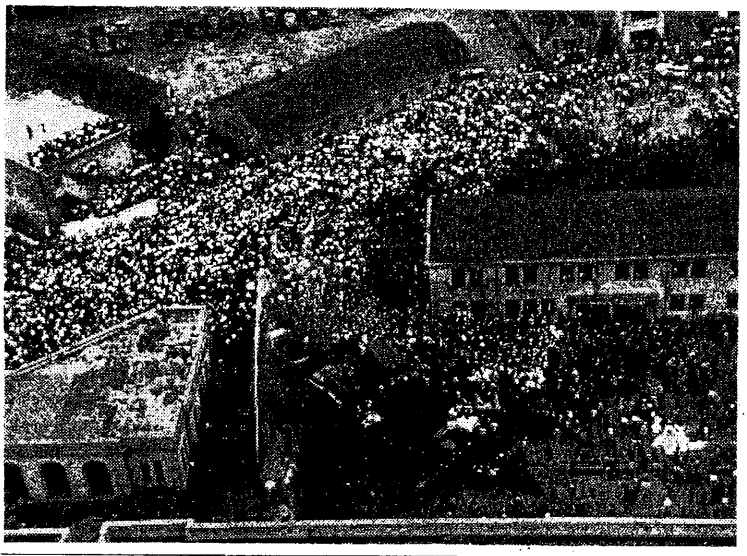
「今の時点で、総評は全学連の闘いを支持しています」

「今の時点とは何だ！」「今までは何をやつてきた！」

「樺さんの死をムダにしないために、われわれは二十二日にゼネストで……」

「二十二日で間にあうのか遅い！遅い！」……騒然たる野次。「殺したのはお前じやないか!」岩井は、数万の大衆を前にして自らが被告の席につかされていることに気がつくべきだつたのだ。

「総評の岩井さんは今、の時点で、全学連の行動を支持するといわれました。しかし、僕たちはどうしてもいいたい。何故、十一・二七の時点で、一一六羽田闘争の時点で全学連の行動を支持してくれなかつたのか。十二月二十五日の国民会議の決定を最後まで堅持して実行したのは全学連だけではなかつた。もしもあの時点で僕達の行動が支持されていたら、現在はもつともつと有利な立場に安保闘争は立つていただろうと思います」



会を終えて、国会議事堂までジグり、国会と首相官邸を完然に包囲した。包囲陣は、暗くなつてから少なくなるどころかますますふえて坐りこみを続けた。岸はこのため官邸にカンヅメになり、破廉恥にもテレビで野球を見ていたと伝えられる。

同日、全学連は日比谷の集執北小路君の報告、白いホウタイ姿に、惜みない拍手が応えた。

岸ふたたびカンヅメ

白いほうたい姿の全学連中

共産党 死者を喰物に

樺さんの死に対し、全国の労働者から、深い悲しみと、烈しい怒りと、そして岸打倒・安保批准粉砕まで闘いぬく固い決意をこめて、弔電が続々と東大学生自治会・全学連書記局に寄せられている。

六月十七日夕刻現在、八十九通が東大中央委員会室前に貼り出されているがその一部を紹介する。

×　×

北海道教組長沼分会、福岡県貝島炭鉱労働組合、福岡県飯塚炭鉱労組、山

じろいたあとに、前進を開始した。

こうして、頑強に自民党独裁のとりでを守つていた門は破れ、学生は続々と中に向つていつた。――しかし中には、壮絶な白兵戦がつづいていた。

先頭のスクラムの腕と腕の間に、さらに肩に頭に、コン棒が満身の力をこめてふりおろされる。ゴツンゴツンという音とともに学生達は声もたてずに倒れおちる広場は見る間に流血の修羅場と化した。デモ隊の一部が外に押し出され、警官隊